

浜松市生活支援体制づくり協議体（第2層、北遠中央圏域） 第1回会議 議事録

開催日時	令和2年10月30日（火）13時30分から15時まで
参加者	委員：6人 事務局：4人 その他：9人（高齢者福祉課：2人、区長寿保険課：3人、包括支援センター：3人、社協地域支援課：1人）
場所	山香ふれあいセンター 会議室
内容	<p>1. 開会</p> <p>2. あいさつ 浜松市高齢者福祉課 課長補佐 亀田岳史 浜松市社会福祉協議会 天竜地区センター長 太田泰司郎</p> <p>3. 委員自己紹介</p> <p>4. 各地区の取り組み状況について 各地区部会委員3名より説明</p> <p>5. 意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども、学生が出ていくと若い人も出ていく。それを止めることができれば高齢化は抑えられるのでは。</li> <li>・育児、子育て環境について、人数が少なくできることはやっているが、予算の問題や行政に依頼してもすぐには取り掛かれない。 アンケートに子どもの項目もあるが、実際問題子どもが少なく環境的には難しい。 道路が使えなくなり、救急や通院の問題もある。買い物支援も、スーパーよりも値段が高いこともある。 アンケートの「困ったときの相談は誰とするか」の点で、別居家族ともつながりがあっても良いのではと感じた。</li> <li>・地域を出ていった家族との取り組みについて、遠距離介護支援セミナーを行う予定だったが令和2年8月にはできなかった。 第1回は反響があった。そこから何件か支援をする機会があった。素直に相談していただき風通しもよくなってきた。 薬の内服管理ができていないという声も多く、家族も関わっていないなければならない。地域包括ケアをしていかなければならない。 「あんじやないね通信」を全部で6号出している。反響もある。地道に出していく。 行政の地元職員が退職して、地元を考える職員が減ってきている。今後、行政の力も落ちてくることが予想されるため、今できることを探していく。</li> <li>・道路や土砂崩れの対応が他県に比べて遅いと感じる。 子どもに関しては、水窪には地域サポーターがいて小学生と野菜作りや米の釜炊きをするなど地域の人が活動をしている。</li> </ul> <p>事務局および包括より参考資料を使い他地域の取り組みを紹介。</p> <p>6. 質疑応答、意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水窪タクシーのようなものがある場合でも、住民主体の移動サービスはできるのか。</li> </ul> <p>→利用者の選別は必要だが、ボランティアを募れば可能。地域との共存も考えな</p>

	<p>ければならない。(町の事業所を利用する)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・NPO ほっと龍山が行っている移動販売の助成金は間もなく終了だと思うが、そのあとの事はどのように考えているか。</li> </ul> <p>→令和3年度で終わり同じ形態では受けられなくなるが、何か工夫をしていかなければいけないと考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・森町の人口2万人のうち、利用者26人、サービス提供者8人とあるが、2万人に対し少なく感じるがそのくらいのものなのか。</li> </ul> <p>→同居率が高い地区でもあるので、中山間地域の方・家族がいない方を対象としているため。サービス提供者も自分の車を使用するのでこのような数字となると考える。</p> <p>→森町の事例は他の移動支援の事例と比較しても条件を多く定めている方。対象を絞っている事例はあまりない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・移動販売について、上阿多古・下阿多古ではサロン会場を中心に販売している。近所の人も立ち寄り、買い物支援が広がっている。人を集めるのは大変だが、人が集まっている所で行う事は良い形だと感じた。サロンの存在も知ってもらえることもメリット。</li> <li>・資料P10の「考えられるサービスや活動はすでに行っているという認識があるが、実際の利用数はあまり高くない」とあるが、なぜか。</li> </ul> <p>→ふれあいタクシーというものがあつたが、電話申し込み等の利用するハードル、行きたい時間に便がない利便性の問題があつた。配食サービスも利用すべき人が利用していないという事があつたため。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・移動販売の参考例について、「興味ありますか」という質問には「ある」と答え1回目、2回目は使ってみるが、あとは使わないということがあつた。そのことから、1回目に広く調査を実施して、2回目で課題を深く調査していく地域も出てきたので参考までに情報提供させていただく。</li> <li>・シニアクラブには友愛訪問と重ね見守り活動をするのはどうか。</li> </ul> <p>→シニアクラブの年間スケジュールもあり、そこまでできるかはシニアクラブとも検討しないとわからないが、できたらいいと思う。</p> <p>7. 次回の予定 第2回北遠中央圏域協議体会議 3月を予定</p> <p>8. 閉会</p>
今後の見通し等	<p>佐久間地区と水窪地区については来年1月スタート予定の高齢者見守り支援ネットワーク活動の立ち上げ準備を進めていく。龍山地区は9月に実施したアンケート調査の結果を基に今後地域で取り組むことのできる支援活動を検討していく。</p> <p>全地区的には、第2層協議体会議で紹介した他地区での取り組み内容などを参考に、住民のニーズに合った支援活動を検討していく。</p>